

どんな職業か

工業製品の取扱説明書（マニュアル）の中で操作説明などを視覚的に行うために、製品や部品の詳細なイラストを作成する。

イラスト作成の依頼を受け、イラストを作成する製品や部品などの資料を受け取る。図面をもとに寸法を測り、所定の縮尺に従った、現物に忠実なイラストを作成する。そのため、別々に描いた部品のイラストを組み合わせ、製品のイラストを描くなどの手法が可能になる。また、図面がない場合には、実際の製品を計測したり、写真を計測して原寸の寸法を割り出してから、イラストを作成することもある。さらには、現物がまだ完成していないような場合に、口頭での説明や簡単な絵をもとにして、製品の完成予定図を描くこともある。

得られたデータをコンピュータに入力し、CADソフトやCGソフトなどの専用のソフトウェアを使用して、立体的な表現ができる3次元のイラストを作成する。取扱説明書に添付するイラストの場合には、製品を取り扱っている様子を表現する必要がある。コンピュータを使用して部品や製品などを多角的に表現し、視覚的に普段見ている状況に最も近い状態を選択し、見た目に忠実なイラストを描く。広告などに用いられる人を惹きつけるための芸術的なイラストを作成することもある。

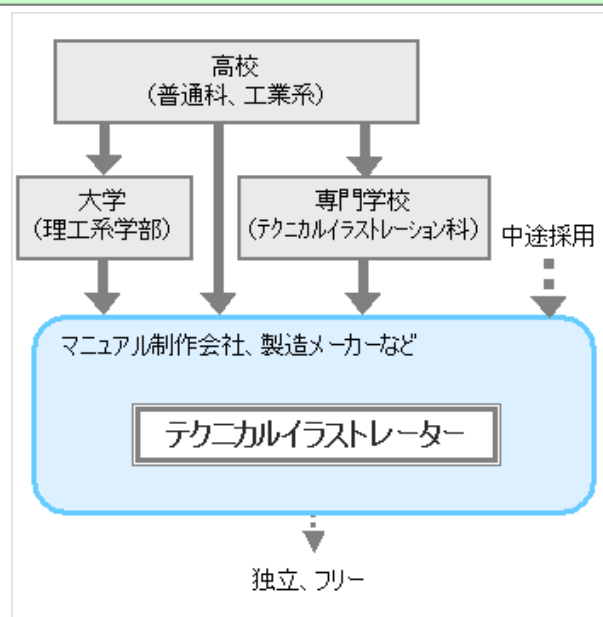
就くには

理工系の大学、工業系の高校、テクニカルイラストの専門学校など、工業技術の知識を得ていれば有利である。しかし、美術系や文科系の大学などを卒業した場合でも、工業製品全般への興味があれば向いているといえる。

新卒の場合には、学校からの紹介で入職することが多い。中途採用の場合には、経験者を公募することが多い。全く経験がない場合には、日本テクニカルイラストレーション協会の実践教室などで技術を習得し、協会の研究会などに参加して技術を認められ、参入することもある。

厚生労働省が実施している技能検定にテクニカルイラストレーションの職種があり、「テクニカルイラストレーション技能士」の資格が取得できる。仕事に必ず必要な資格ではないが、取得していれば有利である。

メーカーやマニュアルの制作を行っている会社に就職し、設計図や制作図を読む技術、製図の基礎的知識、コンピュータを扱う技術などを身につける。経験を積んで絵画的なセンスを磨き、だんだんと複雑な仕事を任されるようになる。フリーランスに転進することも多い。図面から複雑な立体をイメージしたり、複雑な動作を想像できるような空間判断力が求められる。



労働条件の特徴

中小の制作会社の社員やフリーランスが多いのが特徴であり、労働条件は事業所ごとにまちまちである。技術があれば、比較的よい条件で働ける場合が多い。

制作を依頼する側のメーカーが大都市に立地していることが多いため、テクニカルイラストレーターもその近辺に居住している割合が高くなっている。

技術進歩により、コンピュータを使用したイラスト制作が一般化し、3Dなどの高度な表現技術に通じた人材が求められている。電子データ化されたオンラインマニュアル（コンピュータの表示画面上で利用する説明書）も増加しており、ある程度の労働需要の増加が見込まれる。

参考情報

関連団体 日本ビジュアルコミュニケーション協会
<http://www.javc.gr.jp>

関連資格 テクニカルイラストレーション技能士